

「瀬田川水系直轄砂防事業完了記念式典」を開催 ～ 地域とともに歩み続けて136年 そして未来へ ～

国土交通省近畿地方整備局は、明治時代から行ってきた瀬田川水系直轄砂防事業の完了にあたり、地元関係者等を招いて完了式典を行うとともに、先人達の偉大な功績を振り返り、今後も地域とともに土砂災害を防ぐための取り組みを継続していくことをテーマとしてシンポジウムを開催しました。

開催日 : 平成26年3月23日(日) 13:00～17:00
場所 : ピアザ淡海(大津市)
主催 : 近畿地方整備局 後援 : 滋賀県



■ 開会

池内局長の式辞に始まり、国土交通大臣、滋賀県知事、岩永衆議院議員から挨拶をいただきました。

多数の来賓やご協力いただいた地域のみなさま、各種関係者のみなさまなど総計約330名の参加者のもと完了を祝福しました。



嘉田知事 挨拶



岩永衆議院議員 挨拶



大野砂防部長による
国土交通大臣挨拶代読



池内近畿地方整備局長 式辞



会場「ピアザ淡海(大津市)」

■ 完了セレモニー

(事業目録などの引き渡し)

136年間に及び整備した砂防設備目録を、池内局長から嘉田知事に引き継ぎを行いました。

池内局長からは「滋賀県さんに引継ぎするので、今後の維持管理を宜しくお願い申し上げます。」嘉田知事からは「県として責任をもって今後の維持管理をさせていただきます。」とそれぞれコメント。直轄による瀬田川水系砂防事業が完了し、滋賀県へ引継ぐことが確認されました。

■ 砂防事業の経過報告

琵琶湖河川事務所塚原所長によるこれまでの事業経過報告を行いました。

■ 感謝状の贈呈

本事業へのこれまでの多大なる貢献に感謝して、大津市田上山砂防協会に感謝状をお贈りしました。



感謝状を受け取る田上山砂防協会・北川会長(右)



目録を受け取る滋賀県・嘉田知事(右)

■ 講演

歴史・効果・地域、それぞれの観点について3名の方々から、瀬田川水系砂防に対する貴重なご講演を頂きました。

○特別講演

『滋賀県の風土とその文化』

木村至宏氏（成安造形大学名誉教授 近江学研究所所長）



木村至宏氏
（成安造形大学名誉教授
近江学研究所所長）



北川吉男氏
（田上山砂防協会会長）

○基調講演

『瀬田川水系直轄砂防事業における山腹工の効果について』

水山高久氏
（京都大学大学院農学研究科教授）



水山高久氏
（京都大学大学院農学研究科教授）

『砂防事業と地域の関わり』

北川吉男氏
（大津市田上山砂防協会会長）

■ パネルディスカッション



コーディネーター
水山高久氏

地域の歴史と砂防事業のはじまりについて、江戸幕府以前の地域の歴史や文化、禿禿地となった経緯を踏まえ、土砂流出による浚渫の必要性、砂防法の成り立ちと瀬田川水系砂防との関わりなどが議論されました。

また、滋賀県の砂防事業や直轄砂防事業の特徴的な工種「山腹工事」「溪流工事」などが紹介されました。

最後に、地域活動として、学校・地域、行政の取組みを議論し、今後とも地域とともに歩んでいくために「これまでの先人達が育て上げてきた緑を守る」、「山腹工などの砂防独自の技術伝承」、「学校教育として過去の災害を語り次ぐ機能を持続する」ことなどが話し合われました。



木村至宏氏
（成安造形大学
名誉教授）



友松靖夫氏
（元建設省
砂防部長）



藤田康弘氏
甲賀市立
多羅尾小学校校長



美濃部博氏
滋賀県
土木交通部長

広報展示

会場には、これまで136年間かけて行ってきた瀬田川水系砂防事業の歴史、内容及びその効果を紹介するため、広報展示スペースを設け、事業紹介パネルや瀬田川砂防のこれまでを紹介したスライドショーの上映を行いました。また、甲賀市立多羅尾小学校での防災教育の成果や多羅尾災害の写真などの展示を行いました。多くの出席者から興味を引きつけ、好評を得ました。



瀬田川水系砂防事業のパネル展示



スライドショー上映



防災教育の成果・多羅尾災害写真展示

式典、シンポジウムにご参加・各種ご協力いただきましたみなさまにあつく御礼申し上げます。

【お問合せ先】



国土交通省近畿地方整備局
琵琶湖河川事務所

www.biwakokasen.go.jp/

TEL 077-546-0836